

福祉建設経済委員会現地視察報告書

現地視察における調査結果について、下記のとおり報告します。

令和5年7月31日

光市議会議長 木村信秀様

光市議会福祉建設経済委員会

委員長	田邊	学
副委員長	中村	讓
委員	大田	敏司
委員	河村	龍男
委員	小林	隆司
委員	笹井	琢(副議長)
委員	田中	陽三
委員	萬谷	竹彦
委員	森戸	芳史
随行	西	優

記

- 1 現地視察等年月日 令和5年6月26日(月)
- 2 視察先 光市塩田地区
- 3 調査結果等 別紙のとおり

福祉建設経済委員会視察調査結果

1 日 時 令和5年6月26日（月） 10時～11時

2 場 所 光市大字塩田（佐田地区）

3 目 的

委員会の年間テーマである「有害鳥獣対策」に係る調査・研究を行うため、本市事業の視察を行うもの。

4 視察項目と概要

近年、中山間地域を中心に、有害鳥獣による農作物の被害は深刻化しており、農家の生産意欲を削ぎ、農地の荒廃を招く鳥獣被害への対策は、ますますその重要性を増しています。

今回の視察では、近年、光市が整備を進めている防護柵やICT箱わなの設置状況等を現地視察しました。

（1）防護柵設置事業

光市では、平成30年度より国の鳥獣被害防止総合対策交付金（整備事業）の交付を受け、防護柵の設置を進めています。

今回視察した防護柵は、耕作地全体を囲む大がかり、かつ、頑丈なものであり、地表部分にはイノシシ等の掘り返しを防ぐために金網柵の折り返しがつけられているなど、イノシシ等の有害鳥獣の侵入防止に大きな効果をあげています。

なお、防護柵は市が資材費相当分を定額支援し、地元施工により設置されています。



(2) ICT箱わな設置事業

ICT箱わなは、わなが作動すると捕獲隊員のスマートフォンなどに自動でメールが届く仕組みとなっており、日々の見回りの負担軽減などに大きく寄与しています。

令和3年度に国の補助を利用して15台を整備し、市内各所に配置されています。



4 委員所感

【田邊 学】

本市において有害鳥獣による農作物被害額は、約734万円（令和4年度）で、依然として高い水準にある。営農意欲の減退、耕作放棄・離農の増加等、数字に現れる以上に深刻な影響を及ぼしている。

農林水産省では、「鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律」に基づき、現場に最も近い行政機関である市町村が中心となって実施する野生鳥獣に対する様々な被害防止のための総合的な取組を支援している。

本市は、平成30年度から交付金を活用した防護柵の設置を計画的に進めており、人口減少・高齢化が進む中で集落が疲弊することのないように、工夫をこらした対策が今後は必要となる。ICT箱わなについても、令和3年度から15台ありますが、毎日の見回りが楽になり、罠が作動したらメールで通知され捕獲実績の見える化という点で設置台数も今後の検討課題ではないでしょうか。

【中村 譲】

この度の有害鳥獣対策の視察では市内の柵やICT罠について学びました。まず、柵についてですが、柵は領域を囲むことで害獣の侵入を防ぐ効果的な手段です。視察先では、畑に折り返しのついた頑丈な柵が設置されていました。これにより、野生動物などの害獣が作物を荒らすことを防ぐことができます。

次にICT罠についてです。ICT罠は、センサーを活用して害獣を捕獲する仕組みです。視察先では、罠が作動するとセンサーが反応し、メールでお知らせが来る仕組みを実際に見る事が出来、効率的に捕獲されることを確認できました。

視察を通じて、柵や ICT 罫の有効性と効率性について深く理解することができました。

有害鳥獣対策において柵や ICT 罫は有効な手段であります。今後も技術の進歩によって、より効果的な対策が開発されることを期待しています。

【大田 敏司】

去る6月26日有害鳥獣対策視察に行きました。場所は光市塩田地区佐田中地区です。有害鳥獣被害対策として、広範囲に国の支給により材料を支給されその施工については申請をした方々により施工をするというものです。広範囲による金網を設置されており、有害鳥獣が侵入されなくなり、作物の被害が食い止められておりました。

有害鳥獣が入れなくなり作物の被害がなくなり有効に活用されており、これからも推し進めていかれたらよいのではないかと思います。

また、ICT活用により箱わなはたびたび点検、確認をしなくても良い様に見受けられました。市保有の箱わなに全部取り付けられたら良いのではないかと考えられます。

【河村 龍男】

塩田佐田地区の防護柵設置の状況について、現地調査に同行、周辺の田は電気柵設置の所と金網設置の二通りを実施、電気柵設置の所は、すでに草刈りをし、田植えも実施済みでありました。防護柵設置箇所は周回全て、地面設置箇所は折り返しを20cm余り付けており、地面を掘り返して侵入できないように工事がしてありました。これから田植えを実施するようですが、周辺の草刈りを含め、維持管理に相当な手間がかかりそうです。

地域一帯を同一の基準で、同一の方式でイノシシ対策が実施できれば、地域の一体感と多少の経費が違ふと思われそうですが、一体での取組は相当な年数がかかると思われるので難しいと思われそうですが、電気柵と防護柵が混在しているのは最近の傾向でしょうか。

【小林 隆司】

畑全体を防護柵で覆うことにより、鳥獣被害を防止できることが理解できました。一方、防護柵の設置は、農業者自らが行うことで、段階的に設置されている状況です。農業者が本業により集中できる環境を構築するためにも、防護柵設置に係る費用補助が必要と感じました。ICT技術を使用した捕獲機材を導入したことにより、何時、何処にいても、捕獲機材の状況を把握することが可

能になりました。これにより、捕獲隊の見回り活動の負担軽減及び効率的な捕獲につながっていると感じました。さらに捕獲機材の周囲に Web カメラを設置することで、捕獲機材の中がより詳細に把握でき、捕獲隊のさらなる負担軽減につながると感じました。

【笹井 琢】

携帯へメール連絡のある ICT 機能付箱罾は、毎日見廻る苦労や処理用具を準備する苦労の軽減に繋がる。

次段階は遠隔カメラや自動餌やり機の導入と考える（家庭内ペット用はどちらも実用化されている）。

防護柵については掘返し防止用の L 字型となっていた。既存の柵や扉をイノシシが掘返した跡を視認したことがあり有効と感じた。

石城山の麓の塩田地区については、幕末に第二奇兵隊が駐屯、大正期に紡績工場が立地する歴史があり、残影を感じながらの視察であった。

【田中 陽三】

平成 30 年度から取り組んでいる防護柵について、現地を見ながら職員の説明を聞きました。

令和 4 年度までに約 6,000m、約 20ha に防護柵を設置しており、全く被害が無く生産者の増収につながっているという話、材料を支給して設置は自分たちで行っているという話を聞いて素晴らしい事業だと実感しました。

従来の柵と比較して柵の下部が折り返しになっていて猪の掘り起こしにも対応できる点、生産者が連携することによって広い範囲を囲むことができるのも良い成果が出ている要因かと思いました。

箱わなの作動通知システムにつきましては、求めていた事業なので、今後とも捕獲隊の皆さんの負担が減り効率化できるように、鳥獣被害が減るように、先端技術の研究・導入に積極的に取り組んでいただけるように私も研究していきたいと思います。

【萬谷 竹彦】

まず侵入防止柵を見に行きました。資材費相当分は支援されますが、設置は地元施工との事。杭打ちが一番大変だと言われていましたが、全体的に慣ればそんなに難しくないそうです。イノシシが柵の下を掘ってしまうと中に入ってしまうので、柵の下部を折って設置し、掘っても柵がある状態になっているそうで、工夫を感じ取れました。また、ICT 箱わなも視察し、柵の扉が閉まる

とメールが届く仕組み。点検の空振りが少なくなり、効率が上がったとの事。また、わなは、市内に68箇所。有害鳥獣対策は広範囲にわたるものであり、少しでも効率が上がるやり方を模索しなければと思いました。これからも調査研究していきます。

【森戸 芳史】

国が全額補助する防護柵については、市が補助する市販のワイヤーメッシュの防護柵と比較しても、折り返し付き、特殊塗料による自動修復、丈夫さ等により、抑止力や持続性の点において効果は高く、導入した農業法人においては鳥獣被害を防止できている。塩田や東荷地域以外ではこの防護柵が見られないのは、法人の存在が大きい。市内に拡げるためには補助要件、効果の丁寧な説明が必要。

ICT箱罾については、捕獲隊の負担軽減が確認できた。